

「スポーツ文化ツーリズムアワード2025（スポーツ文化ツーリズム賞）」を受賞

ホンダモビリティランド株式会社(本社：三重県鈴鹿市、代表取締役社長：斎藤毅)は、観光庁、文化庁、スポーツ庁が主催する「スポーツ文化ツーリズムアワード2025」において、本賞である「スポーツ文化ツーリズム賞」を受賞しました。

本アワードは、スポーツ・文化資源を活用した観光振興において、優れた取組を表彰するもので、鈴鹿サーキットで開催される「F1日本グランプリ」におけるサステナビリティ&スポーツ観光としての発展的な取組が、地域と世界をつなぐ共創型スポーツ観光モデルとなっていることが評価され、今回の受賞に至りました。

当社では、今後もモータースポーツイベントを開催するなかで、スポーツ・文化の力を通じて地域と世界をつなぐ取組をさらに加速させ、モビリティ文化の醸成とモータースポーツ振興、人材育成の実践フィールドを活かし、持続可能な未来づくりに貢献してまいります。

取組概要

●地域と連携した国際スポーツイベント

1987年から三重県鈴鹿市でF1を開催。自治体・企業と協働し、地域一体で運営体制を構築することで、持続可能な大会の実現を目指している。2025年は35回目の開催となり、観客26.6万人、うち外国人客は約8万人を記録。

●文化や食を通じた日本の魅力発信

歌舞伎の披露や三味線・和太鼓のパフォーマンス、三重県産の伊勢醤油など地場食材の提供、日本の食文化を体験できるケータリングなどを通じ、日本文化の魅力を発信。

●広域観光の促進

三重県や地域の観光団体と連携し、F1観戦と観光を組み合わせた観光パッケージを展開。県内の日本遺産関連施設等の特別ツアーも実施。

評価ポイント

●発信力

F1開催の機会を捉えて、歌舞伎や日本食の提供などにより、日本文化の魅力発信を行っている。

●経済効果

F1開催にあわせて三重県内周遊ツアーを実施し、観光を通じて地域経済に貢献している。

●地域性

学生へのインターンシップの機会、児童への異文化交流の機会を提供している。

■スポーツ文化ツーリズムアワード2025について

観光庁・文化庁・スポーツ庁の3庁は、各地域のスポーツと文化芸術資源を結び付け、世界に誇れる新たな観光資源を生み出すなど、新しい地域ブランドや日本ブランドを創出し、観光振興・地域振興を推進することを目的として連携を図り、スポーツ文化ツーリズムを推進しています。この取組の一環として、スポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組等について、過去の実績を含めて発掘し、今後の観光の活性化を図るため、「スポーツ文化ツーリズムアワード2025」として優秀な取組を選定・表彰しています。

主催：観光庁、文化庁、スポーツ庁

受賞団体のお知らせ(スポーツ庁ホームページ)：

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00215.html



3庁連携シンボルマーク